岡山大学病院 患者・市民参画（PPI）ステートメント（配布用資料）

「つながる場所を、ここに」―― 一緒にこれからの医療をつくっていくために

岡山大学病院は、病気に向き合う患者さん一人ひとりに寄り添いながら、安心・安全な医療をお届けするとともに、新しい治療法につなげるための臨床試験[1]にも力を注いでいます。生まれる前から、元気に暮らす日々、少し体調が気になる「未病」のとき、病気と向き合う時間、そしてその先の人生まで――どの場面でも、みなさまに寄り添う病院でありたいと考えます。

臨床試験をより役に立つものにするには、患者さんやご家族、まだ病気でない市民のみなさまの経験や声が欠かせません。そのために大切にしているのが、患者・市民参画（PPI：Patient and Public Involvement）です。PPI とは、みなさまが研究者とともに、新しい医療の計画づくりから結果のお返しまで、一緒に関わることです。臨床試験への参加をお願いしたり、おすすめしたりするものではありません。

私たちがめざすのは、患者さん・研究者・企業・地域のみなさまが、対等な立場で出会い、学び合える「つながる場所」をつくること。それは、一人ひとりの幸せ（ウェルビーイング）につながる場所です。次の 4 つをお約束します。

1. 患者さん・市民のみなさまと ―― 安心して声を届けられる場所を

みなさまを、これからの医療をつくる主人公であり、大切なパートナーと考えます。率直な声を届けられる環境を整え、ご意見や参画が診療に影響することはありません。個人情報も適切に守ります。オンライン参加や費用面など、無理なく関われる配慮も、可能な範囲で進めます。

2. 企業のみなさまと ―― より良い臨床試験が行える場所を

開発の早い段階から計画を共同で設計し、通院の回数や検査、費用などの負担を、患者さんの視点で見直します。臨床試験に参加するかどうかは、効果だけでなくリスクや負担も十分に理解したうえで、ご本人が自由に決めるものです。参加しない場合も、途中でやめる場合も、診療に不利益はありません。患者さんの安全と権利、研究の科学性・倫理性を最優先にし、内容は透明性をもってお伝えします。

3. 研究者とともに ―― 患者さんの声を研究に活かすために

臨床試験の計画書や説明文書に、みなさまの意見を取り入れます。痛みや見えやすさなど、患者さん自身の感じ方で効果を確かめる指標づくりも進めます。結果は、期待どおりでなかったことやわからなかったことも含め、わかりやすい文書で正直にお届けします。

4. 地域と社会と研究をつなぐパートナーのみなさまと ―― つながりを、社会の仕組みに

自治体・学校・職場・介護と福祉の現場・患者会・メディアなどと力を合わせ、臨床試験について正しい情報をわかりやすく伝えます。スマートフォンを使った臨床試験（分散型臨床試験）では、機器や通信環境がなくても取り残されない配慮を考えます。得られた知見は、地域の予防・健康づくりや政策、診療に役立てます。

みなさまのご意見をうかがいながら、このステートメントも見直し続けます。みなさまとともに、より良い未来の医療をつくってまいります。

2026 年 11 月 岡山大学病院長

[1] 臨床試験とは、新しい薬や治療法、予防法が安全で役に立つかを、患者さんや健康な方のご協力を得て確かめる研究です。このうち、国から新薬として承認を受けるために行うものを「治験」といいます。「臨床研究」「治験」なども含め、ここではまとめて「臨床試験」と表記します